
月の夜には唄を

零

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月の夜には唄を

【Nコード】

N4684Z

【作者名】

零

【あらすじ】

白銀の髪と蒼の眼をもつその人はいつも変わらない表情で外を見ていた。

感情など存在しないかのように。

そうして月日は流れたが、彼女の時間は止まったままだった。

一人の青年と出会うまでは。

序章（前書き）

唄が聞こえた。

なぜだか気になった。

静寂のなか。

ふと気がついたら聞こえていた。

吹き抜ける秋風にて届いたその唄は、不思議と懐かしい唄だった……。

序章

いつからか、ここに来ることが習慣になってしまった。理由は自分でもわからない。はじめはただの気まぐれだった気もするが、はたしてどうだったか。

「貴女にはなにが見える？」

問いかけても応えはない。夜風の吹き抜ける王宮のテラスから外を眺めるその人はいつもと変わらない表情。

「俺には月が見えるよ。満月……いや、ちがうな。満月は明日か。」
確信はないが、見上げた月はまだ少し痩せているようだ。その月の光と同じ白銀の色の髪と蒼い瞳。「おやすみ。」そう言つと微かに微笑った気がした。

序章（後書き）

なに一つ具体的なことが出てきていませんが、ぼんやりと物語の輪郭がみえたでしょうか。
次作にご期待ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4684z/>

月の夜には唄を

2011年12月15日22時49分発行